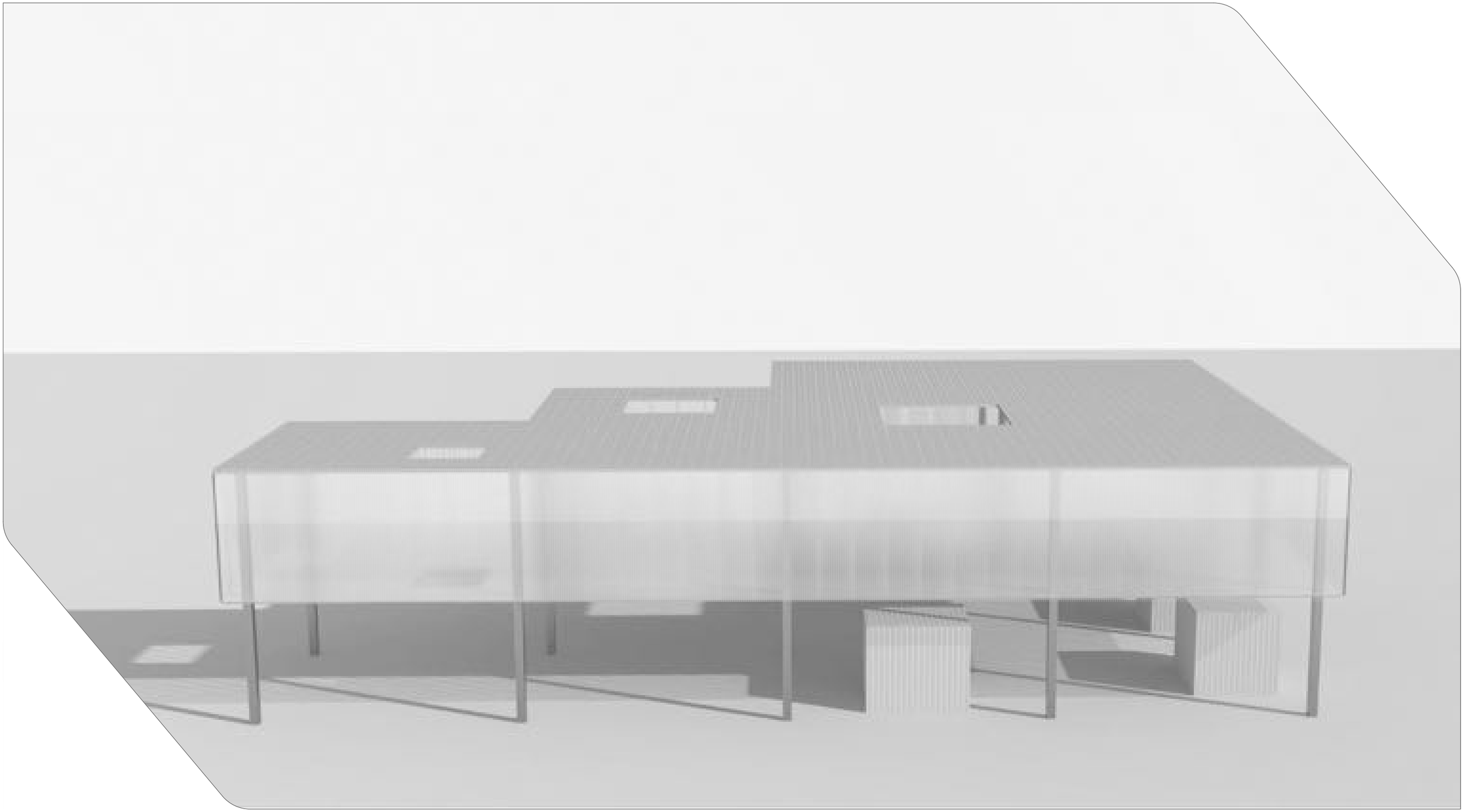


雲間

人造の雲のような空間

船着場は旅の始まりと終わりの場所である。

そして船旅とは、デジタル情報に1日の大半を振り回される現代人にとって豊かでスローな時間体験を取り戻させてくれる貴重な移動手段だ 。

波止場に立っていると、肌に当たる風の感触、潮風まじりに船油が燃える匂い、強烈な日差し、時折降る強い雨、広大な海が、我々が生身の人間であると言う事実を教えてくれる。

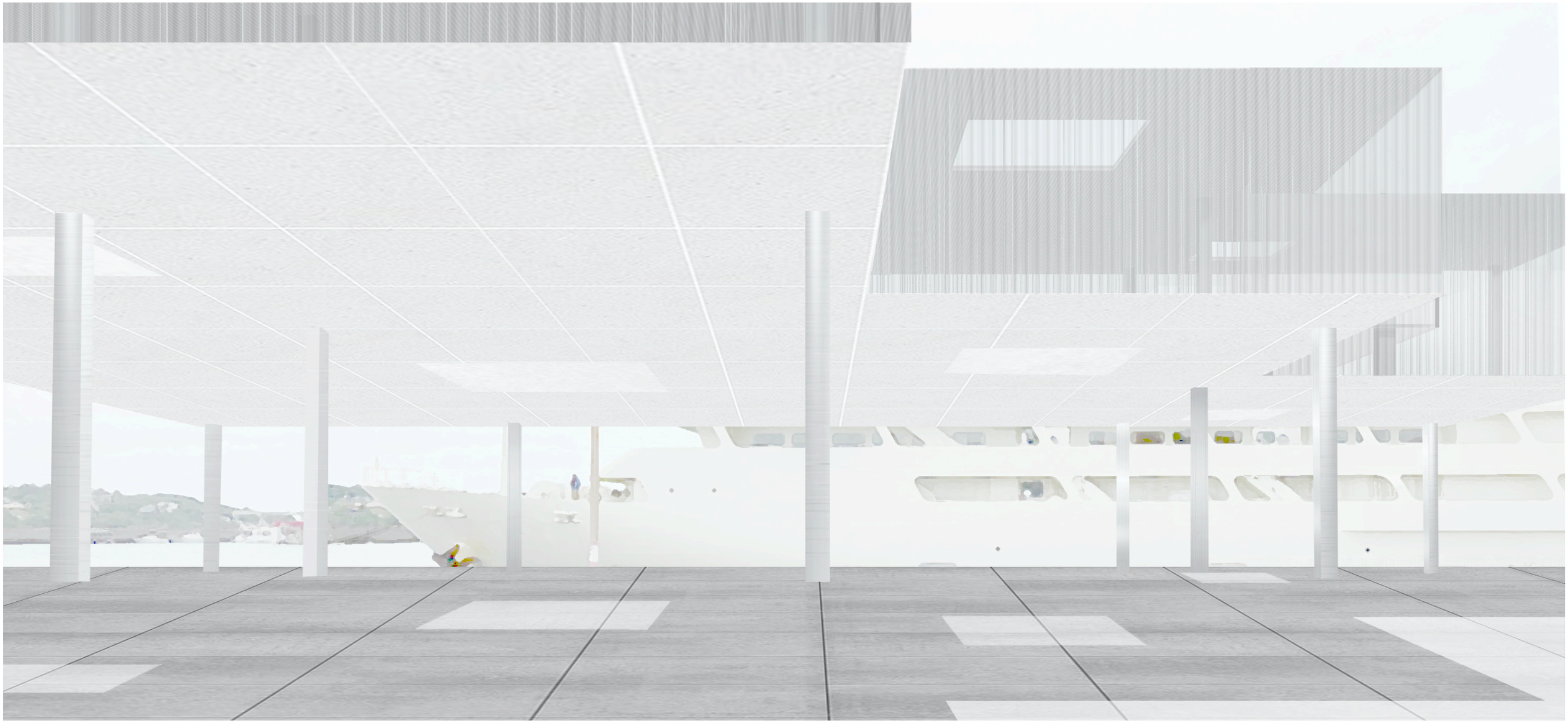
私たちは、沖縄の強烈な日差しを柔らかく取り込む建築を考えた。そして海上から見た広大なスケールの中で目印になる建築を目指した。

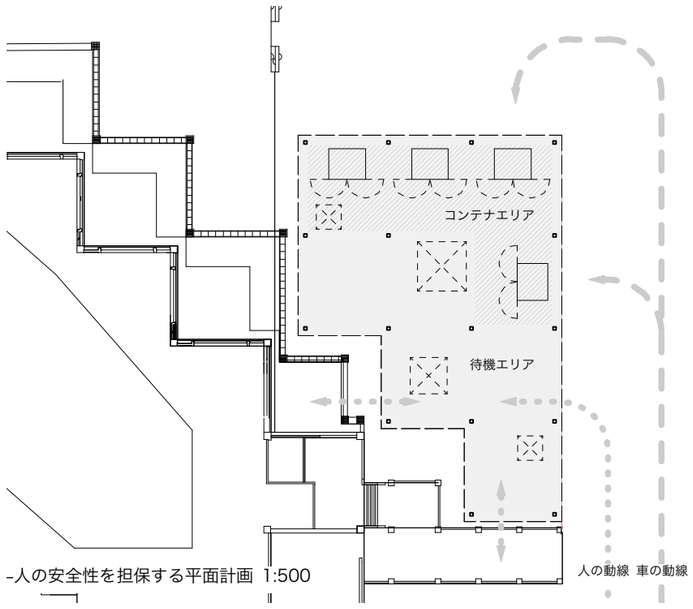
厚みのある幾何学の屋根から自然光が屈折して差し込み、沖縄の強烈な日差しを木漏れ日のようにいなす。

はっきりとした強い線のない吊り材の屋根は、普段気にしないような自然現象を増幅させ可視化させる装置であり、

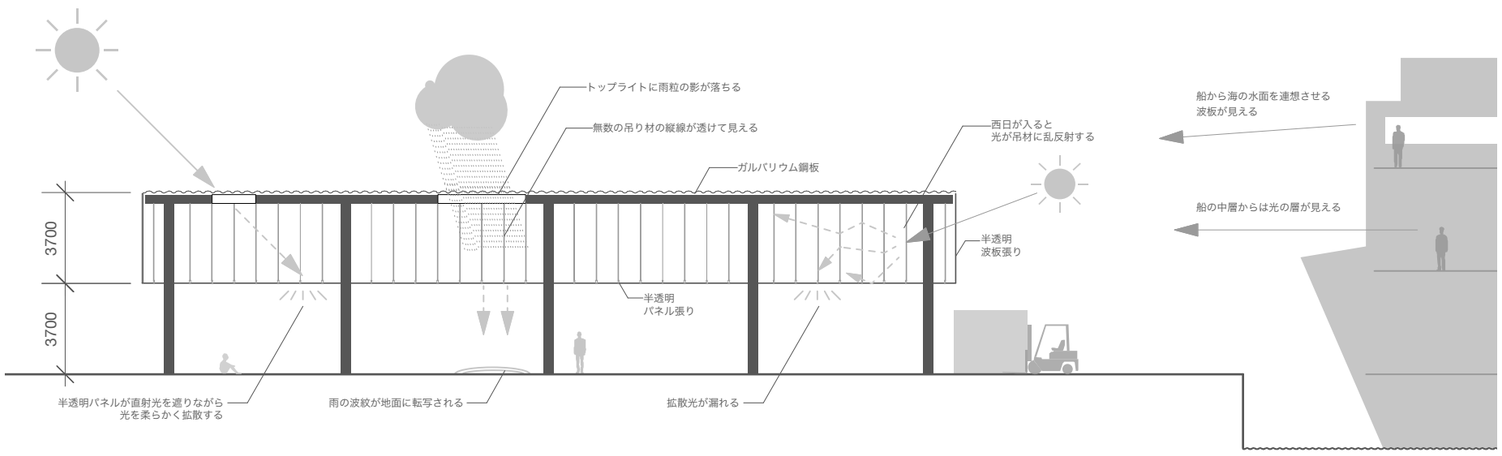
照明装置であり温度調整装置であり構造体の一部でもある。

大きな雲の下で休むかのように、この場所を訪れた旅行者たち、普段使いの島人たちそれぞれの居場所となることを想像している。





-人の安全性を担保する平面計画 1:500



自然現象を増幅させる断面計画 1:250